

学校保健

茨城県学校保健会

第 63 巻

第 2 号

令和2年3月1日発行

口を閉じて

茨城県学校保健会 職域部会推薦理事 鶴屋 誠人



バランスの良い食事をよく噛んで口から摂ることは生涯を通じて大切なことです。成人以降では口からの摂食の可否が生命予後に影響することも少なくありません。しっかり噛むという機能は幼児期から学童期を経て発育形成されていきます。しかしながらファストフードに代表されるように昨今の食事情は甘くて柔らかいものが多く容易に入手できるため硬い食材は避けられ、食のバランスは偏りがちになります。

平成17年に施行された食育基本法において、子どもたちの健全な心と身体を培うために食育の重要性が謳われており、それは学校教育においても推進されています。

教職にある先生方は子どもたちと常に向かい合っているので授業や給食を通じて顔つきや話し方、食べ方が把握しやすい立場にあります。その中で口がポカンと空いた児童が少なからず見受けられると思います。また給食で好き嫌が多い子や食べ方が遅い子もいるでしょう。その中には「口腔機能発達不全症」と診断される子どもたちがいます。これは摂食機能障害の原因となる明らかな疾患はないけれども「食べる」、「話す」、などの「機能」が十分に発達していない、もしくは正常に機能獲得ができていない状態であり、本人は自覚症状がない場合が多いとされています。

この診断にはいくつかのチェック項目がありますが、判断しやすくてかつ重要な所見として口唇閉鎖不全、すなわち口ポカン状態があります。その半数近くが鼻ではなく口で息をする口呼吸であると言われています。これは歯並びあるいは口周囲の筋力が弱かったり、その反動として舌を突き出す力が強くなることで生じると言われております。口呼吸はアトピー性皮膚炎、口臭、歯肉炎といった疾患の発症と関連性があり、また風邪やインフルエンザに罹りやすくなるとされています。さらに口呼吸は集中力を鈍らせ、学習における記憶能力を低下させるとも言われております。

また「食べる機能」に関しては、口唇閉鎖不全の状態にあると咀嚼や嚥下に関与する筋力も弱い傾向にあるため、食事に時間がかかったり逆によく噛まずに牛乳や汁物とともに流し込んでしまう早食いになったりします。

この対策にはよく実践されている方法として給食の食材を少し大きめにカットして噛みごたえのあるものに調理してもらう方法があります。また食材は同じでも牛乳や汁ものを最初に少しだけとり、そのあと主食主菜は水分で流し込まずに食べ、最後に残りの牛乳や汁物をとるようにすることでよく噛んで早食いを防ぐという食べ方も効果があるようです。口が常に空いているような状態は見かけだけではなく、機能的にも問題を抱えている場合があるので、口を閉じるように意識させることは大切なことです。

(茨城県歯科医師会 学校歯科担当理事)

時 流

「笑顔」という妙薬

昔の人は「笑う門には福来たる」と言った。

「笑い」にも様々なものがある。仲間と肩をたたき合って喜びを分かち合うときのような豪快な笑い、誰かのユーモアで思わずクスッと表情がゆるむような小さな笑み、また周囲の者をほっと和ませてくれる微笑み（ほほえみ）。笑顔との出会いは、凝り固まっていた心や体をゆったりと解きほぐし、その中でふつふつとエネルギーがわき上がってくるのが感じられる瞬間でもある。

教員生活38年、よき出会いがあり、周囲の皆さんに支えら

鉾田市教育委員会教育長 石崎 千恵子

れて一度ゴールテープを切った。思い起こすと、いつの時代にも、教育界にはその時々課題があった。しかし、それを乗り越えることができたのは、希望や理想を語り合う教職員仲間の笑顔であり、支え合いの微笑み（ほほえみ）であった。思うに、「福」とは、生きるためのエネルギーや希望のような気がする。そして教職員にとっても、子どもたちにとっても、心が萎えてしまったとき、福を呼び込むのが「笑顔」という妙薬である。

令和元年度 学校保健・学校安全研究大会開催

令和2年1月29日（水）ザ・ヒロサワ・シティ会館において、県内全域から約1,000名の関係者が参加して盛大に開催されました。

大会概要

1 開会

2 学校保健・学校安全関係表彰

3 実践発表

(1) 学校安全総合支援事業実践発表

ア 県立海洋高等学校 イ 鹿嶋市教育委員会

ウ 阿見町教育委員会

(2) 研究推進学校発表

稲敷市立江戸崎小学校

4 講演

「健康教育を中核とした学校保健活動の進め方」

講師 宇都宮大学教育学部 准教授 久保 元芳



茨城県学校保健会ほう賞受賞者・受賞校

学校医（20名）

永野 泰宏 神栖市立神栖第四中学校
高山 徹 茨城町立青葉小学校 等
植竹 實 常総市立水海道小学校
太田 祐一 笠間市立笠間中学校
永井 直規 日立市内小中学校
永井 玉枝 土浦市立下高津小学校
土岐 正喜 常総市立三妻小学校
広川 国義 筑西市立嘉田生崎小学校
武藤 隆雄 神栖市立波崎西小学校 等
鈴木 直文 大子町立さはら小学校 等
浦川 圭二 ひたちなか市立外野小学校
莊司 明 つくば市立茎崎第二小学校 等
塚原 圭子 古河市立古河第二小学校 等
中山 公彦 下妻市立東部中学校 等
黒井 信 茨城県立土浦特別支援学校
三輪 隆 土浦市立真鍋小学校
大桶 博美 北茨城市立平潟小学校 等
菊地 達之 龍ヶ崎市立八原小学校
城賀本満登 守谷市立松前小学校 等
小沢 忠彦 水戸市立五軒小学校 等

学校歯科医（18名）

村居 幸枝 茨城県立水戸飯富特別支援学校
大字 崇弘 牛久市立神谷小学校
鈴木 正一 古河市立釈迦小学校
杉本 敏樹 茨城県立中央高等学校
色川 恒彦 ひたちなか市立高野小学校 等
福田 健一 石岡市立北小学校
相良 高一 守谷市立御所ヶ丘中学校

石濱 寛隆 下妻市立高道祖小学校 等
須賀 文男 常総市立水海道中学校
宮本 克樹 牛久市立岡田小学校 等
飯島 陽一 龍ヶ崎市立八原小学校 等
星野 浩伸 牛久市立下根中学校 等
大串 卓 常総市立大生小学校 等
五代儀和春 茨城県立那珂高等学校
長友 芳郎 龍ヶ崎市立城南中学校
飯島 清人 牛久市立牛久第二中学校 等
安藤 進平 神栖市立波崎第二中学校
堀江 圭一 つくば市立茎崎第一小学校

学校薬剤師（1名）

中村 照夫 つくば市立谷田部東中学校

学校長（10名）

小野瀬繁子 水戸市立第三中学校
塚本 秀樹 日立市立助川小学校
安原 優 鉾田市立鉾田南中学校
土田十司作 つくば市立手代木中学校
田沼 政志 筑西市立下館小学校
稲川 善成 桜川市立岩瀬西中学校
櫻井 邦彦 鉾田市立大洋中学校
皆川 澄雄 水戸市立第四中学校
西連寺 有 常陸太田市立太田小学校
海老原和夫 龍ヶ崎市立龍ヶ崎小学校

保健主事（1名）

茅根 啓司 茨城県立太田第一高等学校

養護教諭（15名）

羽田 史子 筑西市立養蚕小学校
石津 聖子 鹿嶋市立大同東小学校
箕輪 雅子 鉾田市立旭中学校
中村 京子 桜川市立桜川中学校
相田美由紀 常陸太田市立金砂郷中学校
丹治美和子 北茨城市立関本中学校
宮本 明美 茨城県立藤代紫水高等学校
伊藤 順子 東海村立東海南中学校
神永江美子 石岡市立南小学校
鈴木 曜子 つくば市立吾妻小学校
額賀 有子 鉾田市立鉾田北小学校
安原 敦子 鉾田市立上島東小学校
服部 順子 常総市立豊岡小学校
梶川 信子 つくば市立栄小学校
市毛 愛 小美玉市立小川北中学校

栄養教諭・学校栄養職員（3名）

小神野あや子 土浦市立神立小学校
菊池 政江 ひたちなか市立勝田第二中学校
小野富士子 水戸市立稻荷第一小学校

市町村教育委員会保健担当者（1名）

富田 万代 大洗町教育委員会

団体（2校）

潮来市立日の出小学校
城里町立桂中学校

法律と学校保健

Vol. 6

個人情報

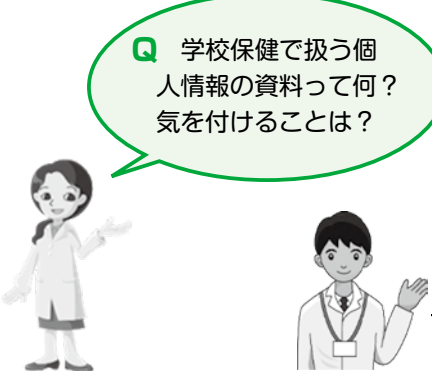
※個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号） 最終改正：平成28年5月27日法律第51号



Q 個人情報って何？

A 生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む）をいう。

※（定義）第2条



Q 学校保健で扱う個人情報の資料って何？
気を付けることは？

A 保健調査票や緊急連絡カード等があります。収集にあたっては次のような点に留意しなければなりません。

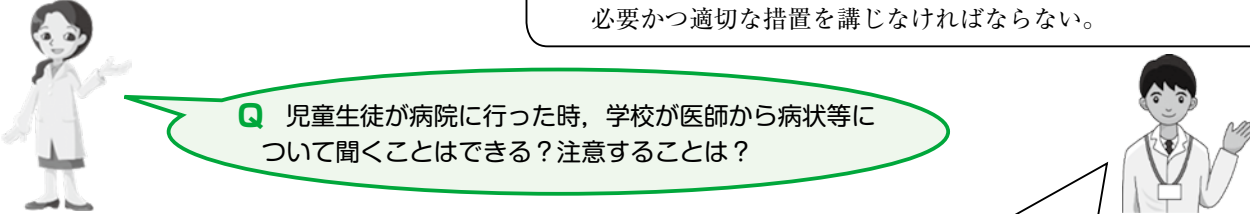
- 利用目的の特定
- 必要最小限の範囲内での情報収集
- 保護者本人からの情報収集
- 保護者本人に同意を得ない第三者への提供
- 適正な保管管理
- 目的外の利用はしない

※（利用目的の特定）第15条

個人情報取扱事業者は、個人情報を取り扱うに当たっては、その利用の目的（略）をできる限り特定しなければならない。

※（安全管理措置）第20条

個人情報取扱事業者は、その取り扱う個人データの漏えい、滅失、又はき損の防止その他の個人データの安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。



Q 児童生徒が病院に行った時、学校が医師から病状等について聞くことはできる？注意することは？

A 医療分野では、第三者提供の取扱いについて、「学校の教職員から、児童・生徒の健康状態に関する問合せがあったり、休学中の児童・生徒の復学の見込みに関する問合せがあった場合、患者の同意を得ずに患者の健康状態や回復の見込み等を回答してはならない」としています。

ただ、「児童・生徒の治療に教職員が付き添ってきた場合について、児童・生徒本人が教職員の同席を拒まないのであれば、本人と教職員を同席させて、治療内容等について説明を行うことができると考えられる。」としています。

同席して説明を受けなかった場合に、後から教職員が医療機関に問い合わせるのは、本人の同意がなければ回答してはならないことになります。

※ 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス

（平成29年4月14日）個人情報保護委員会・厚生労働省 平成29年5月30日施行

※文部科学省所管事業分野における個人情報保護に関するガイドライン（平成27年8月31日文部科学省告示第132号）

平成27年8月 文部科学省

令和元年度 全国学校保健・安全研究大会参加報告

ひたちなか市立田彦中学校 養護教諭 砂押 敦子

11月21日・22日の2日間、埼玉県さいたま市において、令和元年度全国学校保健・安全研究大会が開催された。「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進～主体的に健康課題の解決に取り組み未来を拓く子供の育成～」を主題に、表彰式、記念講演、課題別研究協議会が行われた。

記念講演では「子供のインターネット利用と健康」という演題で、埼玉大学教育学部教授の戸部秀之先生より埼玉県学校保健会の取組についてお話をいただいた。子供のインターネット利用の実態調査、保護者の意識調査を行い、それをもとに活用事例集を作成し、児童生徒の健康教育を実施しており、「依存傾向を測定することで自分事と捉える」「セルフモニタリング法で行動変容を促す」など、授業づくりの工夫が紹介され、大変参考になった。

課題別研究協議では、10の課題に分かれ研究協議が行われた。保健管理では、東京都板橋区立高島第一中学校の発表があり、経験の浅い若手教員が増えてきたことから、感染症予防体制の構築と整備、校内研修の充実に取

り組んだ内容であった。嘔吐対応について、アクションカードを使ってシミュレーション研修を行い、また事故等対応マニュアルを作成し研修することで、教職員の対応力の向上が図られていた。若手教員の増加という同じ課題をもつ本校にとって、大変参考となる発表であった。児童生徒が抱える健康課題を正しく捉え、養護教諭の専門性を活かしながら、組織で取り組むことが、健やかな児童生徒の育成につながることを再認識した2日間であった。



文部科学大臣賞受賞おめでとうございます



潮来市立潮来第二中学校
学校医
仲澤 立治 氏



日立市立塙山小学校
学校医
川島 秀雄 氏



元日立市立河原子中学校
学校歯科医
瀬尾 能生夫 氏



坂東市立七重小学校
学校薬剤師
石塚 とみ子 氏

○ 学校（学校保健の部）
鹿嶋市立波野小学校

○ 学校（学校安全の部）
茨城県立勝田特別支援学校
稲敷市立阿波小学校

研究室 健康について、気付き、考え、生活に生かすことのできる児童の育成 ～地域の特性を生かした、学校・家庭・地域・関係機関との連携による歯・口の健康づくりの実践を通して～

五霞町立五霞東小学校 校長 倉橋 孝一

1 学校紹介

本校は、全校児童213名の中規模校であり、ほとんどの学年が単学級のため、学年を超えた交流が多い。このような実態を踏まえ、本校だからこそできる健康教育を目指し、充実した活動を展開できるよう、教職員が一体となり、日々努めている。

さらに、本町には小学校2校、中学校1校があり、町内ほとんどの小学生が同じ中学校に進学する。小さな町であるため、学校間や関係機関との連携がとりやすく、町全体で児童生徒を見守る体制が整っている。

2 歯科保健活動の取組

(1) 9年間の継続した歯科保健指導

本町3校の学校歯科医が同じであるため、学校歯科医の協力を得て義務教育9年間で系統的な歯科保健指導を実施した。それぞれの学校で行っていた指導の内容を見直し、発達段階を考慮し、決定した。また、ワークシートを活用することで指導の効果が高まるのではないかと考え、6年生のワークシートに、「中学生になった1年後の自分へのメッセージ」を書く欄を設けて、中学校での指導の振り返りに役立てた。

学 年	指 導 内 容
小学1年	歯の王子様をしっかりとみがこう（親子歯みがき教室）
小学2年	前歯をみがこう
小学3年	自分の歯ならびを知って、しっかりとみがこう（家庭教育学級）
小学4年	全国小学生歯みがき大会への参加
小学5年	歯肉の病気を知って、予防のための歯みがきをしよう
小学6年	第二大臼歯をしっかりとみがこう
中学1年	歯・口の健康を考える～効果的な歯みがきをしよう～
中学2年	傷害の防止（保健体育）
中学3年	歯・口の健康を考える～歯周病と口のけがについて～

(2) 家庭教育学級における親子健康教室

家庭教育学級の時間を利用し、親子で歯や口の健康について学ぶ機会を設けた。1年生は第一大臼歯について、3年生は生え替わり期の口の中について、学校歯科医を講師に迎え、染め出しと歯みがきを行った。また、2年生は栄養教諭を講師に迎え、かんで食べることの大切さを学んだ。



【しあげみがき】

(3) 歯科検診を利用した個別の歯科保健指導

学校歯科医と3校の養護教諭で話し合い、歯科検診を個別指導の場となるように工夫した。プライバシー保護に配慮した会場を作成し、歯科医が歯の様子を本人に詳しく伝えることで、自身の歯や口の健康に関心をもたせる機会とした。また、担任が検査の隣で一緒に指導を受けることで、学級児童の歯や口の様子を知ることができ、その後の指導に役立てていた。



【担任も話を聞きます】

さらにその結果から、クラスごとのむし歯の様子を掲示物にし、視覚に訴え、治療を促した。

(4) 地域と連携した歯科保健活動

① 五霞町健康福祉まつりへの参加

3校の児童生徒保健委員が、各学校の歯科保健活動を地域に発信した。当日は、染め出し錠剤を配付しながら、歯の健康について呼びかけたり、室内展示ブースで各学校の取組について発表した。中学生のリーダーシップのもと、協力しながら楽しく活動する様子が見られた。



【染め出し錠剤の配布】

② 三校合同学校保健委員会の開催

学校三師・学校関係職員・関係機関・家庭・地域が連携し、町内児童生徒の保健安全の課題などについて協議を行い、様々な情報交換を行った。

3 おわりに

小さな町であることや3校の学校歯科医が同じであることなど、地域の特性を生かして健康づくりを推進した。その結果、9年間を見通した歯・口の健康について継続的・系統的な指導を展開することが可能となった。

また、各学校内や学校間、家庭、地域、関係機関の多くの人と話し合い、かかわり合いをもつことで、児童の健康課題を様々な面から見ることができ、健康の意識付けにつなげることができた。

今後も、学校間や関係機関とのつながりを大切にしながら、健康教育を推進していきたい。

（文責 養護教諭 児矢野 貴子）



〈今、子どもたちは〉

スマホ・SNS時代に育つ子どもたち

茨城県メディア教育指導員 鈴木 慶子

2004年6月、佐世保の小6女兒が給食の時間に同級生を呼び出し殺害するという残忍な事件が起きました。報道によれば、ネット掲示板に悪口を書かれたことがきっかけだったとのことでした。小学生のインターネット利用に驚く人も多く、規制すべきとの声も上がった時代でした。

その頃、茨城県PTA連絡協議会役員会において、「子どもたちをインターネットの危険から守るために」をテーマに活動することが検討されていました。当時、高校の生徒指導の課題だったケータイ問題。やがては小中学校の子どもたちも持つことになるだろうと、2005年度から「学んで伝えるPTA活動」と銘打って、保護者による保護者のための様々な取組が始まりました。それらは話題となり評価されて、翌2006年、行政のバックアップを受け開催した養成講座を経て、茨城県メディア教育指導員は誕生しました。

あれから13年。ケータイはすっかり鳴りを潜め、スマートフォンの個人保有率が60.9%（平成30年度総務省情報通信白書）となりました。消費税引き上げに伴い期間限定で始まったキャッシュレス消費者還元事業。〇〇payで支払う人が増え、お小遣いもスマホに送金するというケースも出てきました。スマホを使うことが前提の生活様式。新幹線の乗車券購入も、病院の予約も、テスト勉強も、就活のエントリーもスマホ。いつでも、どこでも、誰もが指先だけで情報とつながり、人とつながる。スマホさえあればなんでもできると思い込んでいた一昨年の12月にある携帯電話会社の通信障害が起き、スマホがつかないことで「何もできない」と大騒ぎとなり、日頃どれだけスマホに依存した生活を送っているかを思い知らされました。

マスメディア主流の頃とは違い、SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）を通じて誰もがカンタンに情報発信することもできる。有名人だけでなく、一般の人でも未成年であっても、SNS発信によって世の中に影響を与える「インフルエンサー」になることも可能です。

物心ついた頃からスマホが当たり前にあったスマホネイティブと呼ばれる子どもたち。ネットのコンテンツやサービスはタダで使えるのが当たり前。写真や動画を共有することも友だちとのコミュニケーション。安定した学校生活を送るために欠かせないスマホ、そしてSNS。いつでもどこでも誰かとつながってられる。知りたい情報は瞬時に手に入れることができる。それらを親や先生には知られずに済む。一方で、押し寄せる情報とその選択に疲弊していく。初めは楽しかったのに、次第に負担になっていく常時

接続の人間関係。SNSでのやりとりの食い違いや空気の読み違いへの不安。この気持ちを共有してくれる相手を、解消してくれる誰かをSNSでまた探す。

昨年11月に、大阪の小6女兒がSNSで知り合った栃木の男に連れ出され、監禁されるという事件が起きました。女兒は自力で交番に助けを求め、容疑者宅に別の少女がいることも伝えたことで、茨城の中3女子も保護されました。

ニュースやワイドショーでは、小学生のスマホやSNS利用の是非や、安全な利用のために必要なことは何か?について連日のように議論され、コメンテーターなる人々が「家族のルールづくり、フィルタリング利用、学校における情報モラル教育が重要」と結論づけていました。ちょっと待った。それって全部、ガラケー時代からずっとやってきたはずなんですけど?

情報モラル教育は「一回り」しました。しかし、次の手が見つからず、現状はなかなか好転しません。「こんなことをすればこんな目に遭う」という脅しの手法はもう限界で、そもそもそのような特異な出来事は身近に頻繁にあるはずもなく「自分ごと」として捉えにくい。主体的に考え行動選択することを期待するのなら、子どもたちの日常を知り、それに即した「問いの工夫」が必要と考えます。

また、最近は健康教育の視点での取組の機会も増えてきました。心身の健康を損なわずにデジタル機器を使うための「デジタルウェルビーイング」という考え方やサービスも広がりつつあります。

昨年実施された小学校3年生から6年生対象のある親子講座。「大人のスマホの使い方や気になることはありますか?」と投げかけると4年生の男子が「お母さんは、自分のスマホ以外に会社からスマホを渡されているのですが、家にいる時間にそのスマホに連絡が来て、家族の時間なのに仕事の時間にさせられることが『やだな』と思います。」と発言しました。最近「つながらない権利」という言葉を耳にします。退勤後もメールやSNSによって業務を強いられることを拒否できることを指すのだそうです。メールやSNSで24時間365日つながってしまう現代。大切な家族の時間をスマホに侵食されてしまうことを「やだな」と感じられる気持ちが失われずに育つのであれば、常時つながることを強要する人間にはならないのではないのでしょうか。つながることに潜むリスクばかりを声高に話すのではなく、かつて確かにあった「つながらない時間」の中で経験したことも伝えられる大人でいたいと思います。

学校現場から

「食」は魔法・・・

水戸市立三の丸小学校 栄養教諭 樋口 教子

私は、絵本『14匹シリーズ』が大好きです。どの作品にも、必ず家族全員で食卓を囲んでいるシーンが出てきます。朝ごはんであったり、お月見であったり、収穫のお祝いだったり・・・どのシーンも、温かさであふれ、食事を通して楽しい会話が聞こえてくるようです。思わず、会話を想像してほほえんでしまいます。

孤食が問題視されている今、絵本に登場する、14匹のねずみたちのような温かさであふれる楽しい給食時間を目指そうと日々考え続けています。

本校には「ラビットレンジャー」という赤・黄・緑の栄養の色をした3匹のうさぎの給食キャラクターがいます。前任校に赴任した年の5年生がうさぎ年にちなんで作ってくれました。栄養教諭として試行錯誤しながら、このラビットレンジャーとともに、「食」を通して心身の健康の育成に力を注いでいます。

本校の食育は、食生活の基礎基本を身に付け自らの健康管理ができる子ども、食事を通じて豊かな心をもつ子

どもを目指し、「早寝早起き朝ごはん」と「地産地消に関する体験学習」を2本の柱として年間計画に沿って全学年で進めています。「早寝早起き朝ごはん」では、養護教諭とともに主食・主菜・副菜がそろった朝ごはんを目指し、家庭との連携を図っています。「地産地消に関する体験学習」では、JAや生産農家の方々と連携し、地元のとりたての野菜の皮むきを通して、地場産物への愛着と感謝の気持ちを育成しています。その結果、朝食摂取率や地場産物に対する意識も少しずつ高まってきました。

「食」には、健康や安らぎをくれる魔法のような魅力があります。これからも、絵本に登場するような温かさであふれる給食時間を通して、子どもたちが望ましい食習慣や豊かな心を身に付けられるように魔法をかけていくつもりです。「ラビットレンジャー」とともに520人のラビットファミリーを目指して・・・。

保健室

チーム支援の活用を

筑西市立協和中学校 養護教諭 友常 優子

あとわずか38年間。本当に多くの方々にお世話になりながら、大好きな子どもたちと有意義な時間を過ごすことができました。有り難いです。本当に有り難い、一期一会です。研修会でお目にかかった先生方の仕事に対する真摯な取組、私たちの次の養護教諭世代も活気にあふれて活躍中、安心しています。

さて、みなさん、「私は、頑張りすぎ」って思いませんか。私が毎日目にしているほとんどの教職員のみなさんは、「頑張りすぎ」です。当然、頑張りすぎの長期継続で、病気になってしまうこともあります。

私が実践して有効と思うことは、保健室で受け入れられる生徒は、できる限り受ける。でも、その後はなるべく早く該当学年、該当クラスへバトンタッチ。「ど

うしても困ったら、保健室へ・・・」と、紙上や口頭で呼び掛け、どんどんバトンタッチ。でも、目は注ぎ続けます。何かあったら、フォロー。そして、他の生徒の受け皿も。

みなさん、ぜひチーム支援を最大限に活用ください。多くの人が考える時、大きな力が生まれます。クラス担任と手を携えて、学年を巻き込んで、学校全体を、そして家庭を地域を・・・。多くの人の手と目と心を借りて、目の前の子どもたちを、これからの時代を担う子どもたちを育てていきましょう。気負わずに少しずつ。そして、自分もちょっとだけ前進できたらなあ。生きている以上、楽しく、元気に健やかに生きたいと思います。

健 ～すこやかに～

多様性に対応するための一歩

茨城県立水戸南高等学校 教諭 中田 弘美

水戸南高等学校では、茨城県委託事業の指定校として、「合理的配慮・通級指導充実事業」に取り組んできた。

高等学校において、「合理的配慮」や「通級」という言葉はまだ聞きなれていないのが現状である。そこで、校内の体制づくりと教職員の専門性の向上を意識的に進めてきた。

① 特別支援教育校内委員会の開催

校内に設置されている特別支援教育委員会の機能を十分に生かすため、月1回の定期開催とした。委員会のメンバーは、管理職・教務主任・学年主任・生徒指導部長・教育相談係長・養護教諭・生徒指導相談員・特別支援教育コーディネーターによって構成されている。このメンバー構成は、生徒指導・健康管理・特別支援といった枠づけをすることなく、生徒の情報を共有することをねらいとしているため、校内体制の基盤となる委員会である。

② コーディネーターだよりの発行

昨年度は、法改正や県の動きなどを内容として、

年間22回発刊した。今年度は、身近な情報として外部専門家の助言や校内の教職員が受講した研修会の内容などを知らせている。このことにより、教職員全体へのアプローチを行い、教職員の専門性向上を図ってきた。

③ ケース会議・ケースカンファレンスの実施

担任を中心として生徒情報を共有し、専門家から助言をいただく場をケース会議として設定した。また、一部の生徒に関しては、ケースカンファレンスを開催し、教科担当から生徒情報を報告してもらい、情報の共有を図った。

他にも通常の授業での配慮や個別の対応などの実践を行ってきた。それでも、生徒の実態が年々変化し、多様性をおびている現状から、学校には多様性への対応が求められるものと考ええる。しかし、教職員が疲弊してしまえば、その実現も遠のいてしまう。今あるものを活用・応用し、小さな一歩からでも継続することを意識して取り組んでいきたいと考えている。

浴 徳 泉

徳不孤

茨城県立常陸大宮高等学校 保健主事 安達 和雄

「今日も〇〇さん欠席だな。何日連続？連絡は誰から？理由は？」出欠状況確認ホワイトボードに記入している担任の先生に聴くことから一日が始まる。生徒の困り感、担任の困り感が少しでも軽くなるようなアドバイスを心掛けている。それをその日のうちに必ず養護教諭と情報共有し、効果的な対応を相談し必要と判断すれば、SC、SSWや関係機関と連携する。そこで必ず感じることもある。「私はまだ足りない！」それを埋めるために私なりに学ぶ毎日。「学ぶことをやめたとき、教えることはやめるべき」この言葉を脳裏に刻み、「健やかさを保つ、生徒も先生も」これが今の目標である！目標で終わらないようにチーム対応を心掛けている。チーム対応を円滑に行うために、目指している人間像がある「徳不孤」。永遠に無理かもしれないが心掛けていること・・・。

事務局だよ

◎ 日本学校保健会主催「全国健康づくり推進学校表彰」

今年度は沢山の受賞がありました。令和2年1月25日 東京 日本医師会館で表彰式と、最優秀校の実践発表がおこなわれました。

〈本県からの受賞校〉

【優秀校】

○五霞町立五霞東小学校 ○水戸市立千波小学校

○大子町立大子西中学校 ○茨城県立境特別支援学校

【優良校】

編集 後記

メディアの利用については、多くの学校で問題を抱えていることと思います。WHO（世界保健機関）が「ゲーム障害」を新たな病気として2019年5月に国際疾病分類に加えたことから深刻さが伝わります。ネット依存に関する情報を得て提供する。問題の周知を図り、保護者にも働きかけていくことが大事だと考えます。

会報「学校保健」（第2号）をお届けします。ご多用の中、玉稿を賜りました皆様方に心から厚く御礼申し上げます。

会報編集委員

美野里中	倉田 隆子	那珂三中	茅根 直子
岩間一小	栗原 浩子	延方小	山口 真理
枝川小	遠藤 愛美	水戸/常陸	西田 晃代
事務局	直江 克也	事務局	叶 智子

茨城県学校保健会

会長 諸岡 信裕

〒310-0852 茨城県水戸市笠原町489番地 県メディカルセンター内

Tel 029(243)4170 E-mail hokenkai@sunshine.ne.jp

(印刷)

山三印刷株式会社